

「防災屋外スピーカー整備に関する住民説明会」
参加者からいただいた主な質問とそれに対する回答について

1. 整備・設計について

(1) 設置場所について

Q1 スピーカーの設置場所はどのように決められましたか？

A1 まず、宇部市で大きな被害が想定される津波・高潮災害を考慮して、それらの浸水想定区域にスピーカーの音を届けられるよう、海沿いや厚東川沿いに設置場所を決めています。さらに、内陸部の各地区については、大規模な災害が発生した場合、多くの避難者の受入れが想定される小中学校を中心に設置場所を決めています。なお、設置場所の土地の取得から進めると運用の開始までに長い期間を要するため、設置場所はふれあいセンターや小中学校などの市有地にしています。

Q2 ふれあいセンターや小中学校などの建物の上にスピーカーを設置しないのですか？

A2 市の建物の屋上や壁面にスピーカーを設置する場合、建物に及ぼす影響や安全性を確認しなければならず、その結果、建物の補強が必要と判断されると運用の開始までに長い期間を要するため、設置位置にしません。なお、市役所新庁舎はスピーカーの設置を前提に設計しているため、屋上を設置位置にしています。

Q3 電力会社や通信会社などの電柱や鉄塔にスピーカーを設置しないのですか？

A3 電力会社や通信会社などの電柱や鉄塔は宇部市の所有ではなく、スピーカーや周辺機器の維持や保守に支障をきたす可能性があるため、設置位置にしません。

Q4 スピーカーの設置場所は変えられないのですか？

A4 現地調査や実施設計を済ませているため、基本的には設置場所を変えることは考えていません。

(2) スピーカーの種類について

Q5 どのようなスピーカーを設置されるのですか？

A5 2種類のスピーカーを設置します。一つは360度の全方位に音を伝えられるスピーカー（全方位スピーカー）で、仕様での音達距離は概ね1,200メートルです。主に海沿いや厚東川沿いに設置します。もう一つは特定の方向に音を伝えるスピーカー（スリムスピーカー）で、仕様での音達距離は600メートルから800メートルです。主に内陸部の各地区に設置します。

Q6 スピーカーの方向や出力(スピーカーの大きさ)はどのように決められましたか？

A6 市がスピーカー整備の設計を委託した業者において、設置場所周辺の地形や建築物などの状況を考慮するとともに、他のスピーカーと音が重なって反響する影響を踏まえた上で、スピーカーの方向と出力を決めています。

Q7 スピーカーの大きさ(出力)は変えられないのですか？ スピーカーを大きくすれば音が届く範囲(音達範囲)が広がると思いますか？

A7 スピーカーを大きくすると、他のスピーカーの音や設置場所周辺の地形により音が反響して、放送の内容がはっきり聞き取れなくなることが考えられます。また、実施設計も済ませているため、スピーカーの大きさ(出力)を変えることはできません。

(3) 整備費用などについて

Q8 1箇所当たりの整備費用はいくらですか？

A8 全方位スピーカーは1箇所当たり3千万円から4千万円、スリムスピーカーは1箇所当たり1千万円前後です。なお、整備費用はスピーカーを設置する鋼管柱の高さや基礎の構造などに異なります。

Q9 整備費用に対して得られる効果が低いと思うのですが？ これだけの整備費用をかけるのであれば、防災メールや防災ラジオなどの他の情報伝達手段の普及や整備に使われた方がいいと思うのですが？

A9 宇部市では、住民の安全を守るために、平成31年1月に策定した「宇部市防災情報伝達手段整備計画」において、様々な情報伝達手段を用いて全ての世帯に情報を伝えられるよう、新たな情報伝達手段を整備することとしています。新たに整備する情報伝達手段の一つであるスピーカーは、他の情報伝達手段と比べて不特定多数の住民に対して一斉に情報を伝えることができ、住民の安全を守るために不可欠であると考えていますので、ご理解をお願いします。

Q10 維持費用はかかりますか？ かかるのであれば誰が負担するのですか？

A10 保守点検や定期的な部品交換などの費用がかかります。これらの費用は宇部市が負担します。

(4) テスト(実証実験)について

Q11 スピーカーの設置工事が完了した後に、音の聞こえ方を確認するためのテストは行いますか？

A11 はい。行います。確認は必要と考えています。

Q12 スピーカーの設置工事を始める前に実証実験は行わないのですか？ スピーカーの音を聞いてみたいのですが？

A12 実証実験は平成 30 年 6 月に市役所本庁舎と黒石ふれあいセンターにスピーカーを設置して実施しており、今後実施の予定はありません。スピーカーの音を確認できるのは、スピーカーの設置工事が完了した後になります。

(5) 音が届かない地域について

Q13 スピーカーから離れていて放送が聞こえない世帯に対しては、どのような手段で情報を伝えるのですか？

A13 防災メールや Yahoo!防災速報などの既存の情報伝達手段を利用できる世帯については、それらの手段により情報を伝えたいと考えています。携帯電話やスマートフォンなどを持っていないために既存の情報伝達手段を利用できない世帯については、新たに整備する予定の防災ラジオにより情報を伝え、防災ラジオの電波が届かずに利用できない世帯については、令和元年 6 月 1 日より開始した固定電話防災情報配信サービスにより情報を伝えたいと考えています。

Q14 自分の住んでいるところはスピーカーから離れていて放送が聞こえないと思うので、スピーカーを増やして放送が聞こえるようにしてほしいのですが？

A14 スピーカーだけで全ての世帯に情報を伝えることは、設置費用の上昇や設置場所の確保から難しいと考えています。防災メールや Yahoo!防災速報などの既存の情報伝達手段の普及・促進を図るとともに、防災ラジオなどの新たな情報伝達手段の整備を進めて、全ての世帯に情報を伝えられるよう取り組んでいきます。

Q15 スピーカーから離れていて放送が聞こえない世帯に対して、新たに整備される予定の防災ラジオを無償で配付するなどの代替りの対応策を考えてほしいのですが？

A15 代替りの対応策を実施するかどうか、実施する場合にどのような内容とするかについては、今後検討を進めます。

Q16 スピーカーを増やすことは全く考えていないのですか？

A16 宇部市防災情報伝達手段整備計画に基づくスピーカーや防災ラジオの整備・運用を開始した後に、実際に放送した事例も踏まえながら情報伝達の有効性を確認した上で、他の情報伝達手段も含めて更なる拡充の必要性を考えていきます。

(6) その他

Q17 スピーカーの設置工事を始める前に案内や連絡はありますか？

A17 はい。スピーカーの設置工事の開始時期が決まれば、広報うべや市ホームページなどでお知らせする予定です。

Q18 他の市町村で既に整備しているところはありますか？

A18 山口県内では宇部市と一部の市を除き、ほぼ全ての市町で整備されています。た

だし、全域にスピーカーの音を届けられない市町もあります。

Q19 数年前にスピーカーの整備を提案して、宇部市は整備しないと言われましたが？

A19 当時から数年が経過して、全国各地で頻発する大規模災害や発生が懸念される南海トラフ地震、北朝鮮による弾道ミサイルの発射などの状況を踏まえて、スピーカーの整備に取り組むと判断しました。

2. 放送・音について

(1) 放送の方法について

Q20 放送は誰が行いますか？

A20 市職員が行います。なお、全国瞬時警報システム（Jアラート）※により国から市に送信される弾道ミサイルや緊急地震速報などの情報については、自動で放送を行います。

※全国瞬時警報システム（Jアラート）とは、弾道ミサイルや緊急地震速報などの緊急情報を、人工衛星や地上回線を通じて国から都道府県や市町村などに送信し、屋外スピーカーや登録制メール（防災メール）を自動起動することにより、人手を介さず瞬時に住民などに伝達するシステムのこと。

Q21 放送はどこから行いますか？

A21 市防災危機管理課から行います。

Q22 スピーカーごと（地区ごと）に放送することもできますか？

A22 はい。放送できます。地区を限定して発令した避難勧告や一定の地区内で懸念される不審者の情報などについては、特定のスピーカー（地区）にだけ放送する予定です。

Q23 同じ情報を何回か繰り返し放送されるのですか？ 繰り返し放送されるのであれば、どの程度の時間を置いて放送されますか？

A23 避難勧告などの緊急性の高い情報や複数回の放送が必要と判断した情報については、繰り返し放送する予定です。繰り返し放送する場合、放送する時間の間隔をどの程度とするかについては、今後検討を進めます。

Q24 放送できるのは音声ですか？ サイレン音ですか？

A24 音声・サイレン音ともに放送できます。

Q25 放送の最初にサイレン音は流れますか？ 最初にサイレン音が流れれば、放送に注意を引きつけられると思いますが？

A25 検討中です。ご指摘のとおり放送に注意を引きつけられるよう検討を重ねて、運用の開始までにサイレン音を使用するかどうかなどを決める予定です。

(2) 放送の内容について

Q26 どのような情報を放送されるのですか？

A26 避難勧告などの避難に関する情報や弾道ミサイルなどの国民保護情報を放送する予定です。また、その他に不審者などの防犯に関する情報や給水場所などの避難生活に必要な情報を放送する予定です。なお、高齢者などの行方不明の情報や防災訓練のための放送、試験放送などについては、住民説明会で実施したアンケート結果などを踏まえた上で、運用の開始までに放送するかどうかを決める予定です。

Q27 自分の住んでいる地区と関係がない情報も放送されますか？

A27 基本的には放送しません。地区を限定して発令した避難勧告や一定の地区内で懸念される不審者の情報などについては、特定の地区にだけ放送する予定です。ただし、堤防が決壊して広範囲に浸水が及ぶなどの大規模な災害が発生した場合は、市内全域に放送することもあります。

Q28 放送の内容はテレビや防災メールなどの他の手段でも確認できますか？

A28 はい。確認できます。ただし、避難生活に必要な情報については、他の手段では確認できない場合があります。

Q29 緊急地震速報は放送されますか？

A29 はい。放送する予定です。

Q30 高齢者などの行方不明の情報は放送されますか？

A30 検討中です。住民説明会で実施したアンケート結果などを踏まえた上で、運用の開始までに放送するかどうかを決める予定です。

Q31 時報や音楽は放送されますか？

A31 放送しません。住民の安全を守るために必要な情報を中心に放送する予定です。

(3) 音が届く範囲（音達範囲）について

Q32 スピーカーの音が届く範囲（音達範囲）が地図上に示されていますが、この範囲内であれば放送が聞こえるのですか？

A32 地図上に示す音達範囲はスピーカーの仕様に基づいた予測であるため、気象状況や建物の気密性によっては放送の内容がはっきり聞き取れないことも考えられます。そのような場合は、テレビや防災メールなどの他の手段により内容をご確

認いただくようお願いします。

Q33 スピーカーの音が届く範囲（音達範囲）がかなり狭いと思いますが？

A33 スピーカーだけで全ての世帯に情報を伝えることは、設置費用の上昇や設置場所の確保から難しいと考えています。防災メールやYahoo!防災速報などの既存の情報伝達手段の普及・促進を図るとともに、防災ラジオなどの新たな情報伝達手段の整備を進めて、全ての世帯に情報を伝えられるよう取り組んでいきます。

Q34 スピーカーの音が届く範囲（音達範囲）はどのように検証されましたか？

A34 市がスピーカー整備の設計を委託した業者において、地図上のシミュレーションにより検証を行っています。また、平成 30 年 6 月に実施した実証実験において、市役所本庁舎と黒石ふれあいセンターにスピーカーを設置して検証を行っています。

（4）音の聞こえ方について

Q35 台風や大雨などの時でも放送は聞こえますか？

A35 風や雨などの音により放送の内容がはっきり聞き取れないことも考えられます。そのような場合は、テレビや防災メールなどの他の手段により内容をご確認いただくようお願いします。

Q36 窓を閉めていても（家の中にいても）放送は聞こえますか？

A36 気象状況や建物の気密性によっては放送の内容がはっきり聞き取れないことも考えられます。そのような場合は、テレビや防災メールなどの他の手段により内容をご確認いただくようお願いします。

Q37 他のスピーカーと音が重なって反響することはありますか？

A37 気象状況によっては音が反響する可能性があります。音が反響して放送の内容がはっきり聞き取れない場合は、テレビや防災メールなどの他の手段により内容をご確認いただくようお願いします。

Q38 スピーカーの音はうるさくないですか？

A38 設置場所のすぐ近くではうるさいと感じられることも考えられます。放送の内容は身の安全を守る緊急の情報であるため、ご理解とご協力をお願いします。

（5）その他

Q39 定期的な試験放送は行いますか？

A39 検討中です。住民説明会で実施したアンケート結果などを踏まえた上で、運用の開始までに放送するかどうかを決める予定です。

Q40 真夜中でも放送しますか？

A40 避難勧告や弾道ミサイルなどの緊急性の高い情報については、真夜中でも放送します。

3. 設備について

Q41 スピーカーを設置する鋼管柱は、台風などの暴風により倒れないですか？

A41 仕様では最大瞬間風速 60m/s から 90m/s まで倒れないとされています。

Q42 スピーカーを設置する鋼管柱は、地震の揺れにより倒れないですか？

A42 仕様では震度 7 でも倒れないとされています。

Q43 停電の時でも放送できますか？

A43 非常用電源により一定時間は放送できます。なお、非常用電源により放送できる時間は、放送の回数や長さなどにより変わります。

Q44 高潮や津波などにより浸水しないですか？

A44 設置場所によっては浸水する可能性があります。なお、避難勧告などの緊急性の高い情報については、浸水する前に放送するよう取り組んでいきます。

Q45 放送の通信は無線ですか？ 有線ですか？

A45 無線です。一般財団法人移動無線センターが提供する MCA 無線を利用する予定です。

4. その他

Q46 スピーカーの運用を開始した後も、広報車による放送は行われますか？

A46 はい。行います。スピーカーの運用を開始した後も、既存の情報伝達手段による情報の配信を引き続き行います。

Q47 スピーカーの設置工事が完了した後に、改めて住民説明会を開催する予定はありますか？

A47 今後開催の予定はありませんが、ご要望があれば開催を検討します。